

団体名	広島県	所 属	広報課	他団体等との連携	—
連絡先	県民対話グループ (082)513-2378				

取組事例名	県政知事懇談の取組	取組期間	平成21年12月～
--------------	-----------	-------------	-----------

取組の概要 ～ 知事自らによる、県民との意見交換

知事自らが県内市町を訪問し、地域住民の取組現場の視察や事例発表を聞き、各地域の課題に対する取組などについて、意見交換を行う。

また、これまでの県政知事懇談参加者が相互で情報交換できる場を設定し、取組の輪が広がるよう支援する。

取組の背景 ～ 「県民起点」、「現場主義」の徹底

【平成21～22年度】県政運営の基礎とするため、県内23市町を訪問し、地域住民と意見交換を行った。

【平成23年度】県の目指す姿を地域住民と共有するため、県内8地域を訪問し、知事自らが「ひろしま未来チャレンジビジョン」について説明するとともに、地域住民から地域活性化等の取組の事例発表を聞き、意見交換を行った。

【平成24年度～】県内23市町を訪問し、地域住民との意見交換を行っている。

取組のねらい ～ 県民主体による新たな広島県づくりの推進

地域住民と知事が、地域課題の解決に向けた、地域住民による主体的な取組を一層推進するための意見交換等を行うことにより、住民一人ひとりの県政参画と挑戦を促進する。

取組の具体的内容 ～ 意見交換を通じて、県が目指す姿を県民と共有する

1 取組現場の訪問〔午前〕

知事が地域住民の取組現場を訪問し、現地での意見交換等を行う。



2 県政知事懇談会〔午後〕

地域住民による事例発表などを通じて、各地域の課題に対する取組についての地域住民と知事との意見交換等を行う。



3 地域の宝ネットワーク

これまでの県政知事懇談参加者が、各人(団体)の取組などを相互で情報交換し、新たな取組の輪が広がるよう支援する。

(フェイスブック、ホームページ、交流会)



取組を進めていく中での課題・問題点 ～ より多くの方と情報を共有するために

1 集客

多くの地域住民に参加してもらい、県政に対する関心を持ってもらう必要があるが、各回が短い間隔で開催されるため、限られた準備期間で集客活動を行う必要がある。

2 活動内容の周知

県内各地で様々な挑戦をされている方々の活動内容について、同じ地域内の住民でさえ知らないことが多く、多くの方に周知する機会が必要である。

3 参加者間の連携

県内各地で活動をされている方々は、他地域で同様の取組をされている方々の情報が入らず、限られた範囲での活動にとどまることが多い。

創意工夫した点 ～ 効果的な広報活動・情報共有等の仕組みづくり

1 地域特有の広報活動

開催地域の実情に応じた、住民への浸透力の大きい広報媒体を活用して、広報活動を行っている（市町の規模に応じたチラシ配布、CATVなど地域独自の報道媒体による開催告知、女性会・自治会役員会等の会合に参加し開催告知、有線放送での開催告知等）

2 事例発表による周知

地域住民が活動事例を発表する場として設定。また、知事自らがコーディネイト役を務めることで、県が目指す姿を示しながら、活動内容についての意見交換を行うことができる。

3 「地域の宝ネットワーク」の設立

地域活動に取り組む方々の情報発信や情報交換ができる場として、フェイスブックやホームページの開設、交流会の開催などを行い、取組の輪が広がるように支援している。

取組の成果（効果） ～ 挑戦の取組の拡大

1 多数の来場者

県政知事懇談には、これまでに多数の参加者に来場していただいた。

（H21～延べ来場者：約7,200名、平均来場者〔H24～25〕：約150名／回）

2 挑戦の機運が高まる

多数の来場者に、地域内で頑張っている方々の事例を周知することができた。また、県の目指す姿の共有を図り、一人ひとりの挑戦の機運を高めることができた。（来場者平均満足度〔H24～25〕：93.3%、アンケート回答から；「自分も地域のために役立つことに挑戦したい。」「自分にできることから、第一歩を踏み出します。」「自分自身は何ができるかと考える機会になりました。」など）

また、事例発表者にとっては、知事や多数の地域住民の前で事例発表をすることで、更なる活動の推進力となった。

3 新たな連携活動

懇談参加者を中心に多数の方が「地域の宝ネットワーク」に参加している。（H26.6末：502名）参加者同士の連携活動も生まれてきている。

大竹市の参加者が連携し「大竹和紙」存続のための支援活動を開始、三次市の参加者が連携して「柚子ヨーグルト」開発、安芸太田町の参加者が連携した「きのこパウンドケーキ」販売など



今後の展開 ～ 県民の一層の参加促進

懇談会に参加されなかった地域住民に対しても、地域特有の広報媒体を活用した事後広報を行い、より多くの県民と、県が目指す姿の共有を図り、県民主体による新たな広島県づくりを進めていきたい。

他団体へのアドバイス ～ 「県民起点」、「現場主義」

来場者の確保では、地域の実情や対象の年齢層などを把握し、ターゲットに応じた浸透力の大きい広報媒体を活用した広報活動が効果的である。

懇談会を一方的な広聴の場としてだけではなく、地域住民が活動事例を発表する場にするなど、事例発表者の満足度や来場者の満足度の向上、情報共有につながる場づくりの工夫が重要と考える。